

第 14 回「山形県家計消費動向調査」結果

(平成 21 年 12 月調査)

平成 21 年 12 月

株式会社莊銀総合研究所

目 次

I. 今月の消費指数（総括）	1
II. 調査結果	3
1. 景気判断と見通し	3
① 県内景気	3
② 雇用環境	3
③ 日用品価格（物価）	4
2. 暮らし向き判断と見通し	6
① 世帯（勤労）収入	6
② 資産価値	6
③ お金の使い方（支出状況）	7
④ 生活のゆとり	7
3. 日常の買い物に関する判断と見通し	9
① 嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）	9
② ファッション衣料・靴など	9
③ 家電・AV製品、家具など	10
④ 金融商品（株式、債券など）	10
⑤ 娯楽・レジャー（映画、外食、旅行など）	11
⑥ 習い事（英会話、料理教室など）	11
⑦ 交際費（贈答品、慶弔事など）	12
4. 大きな買い物に関する判断と見通し	13
① 自家用車	13
② 住宅の購入・リフォーム	13
III. 今月の家計簿	14
IV. 特別調査	15
1. 年末年始の過ごし方について	15
① 年末年始の外出状況	15
② 旅行にかかる予算	15
2. 年末年始の節約状況について	16
① 節約意識の度合い	16
② 節約する支出項目	16
V. 調査の概要	17

I. 今月の消費指数（総括）

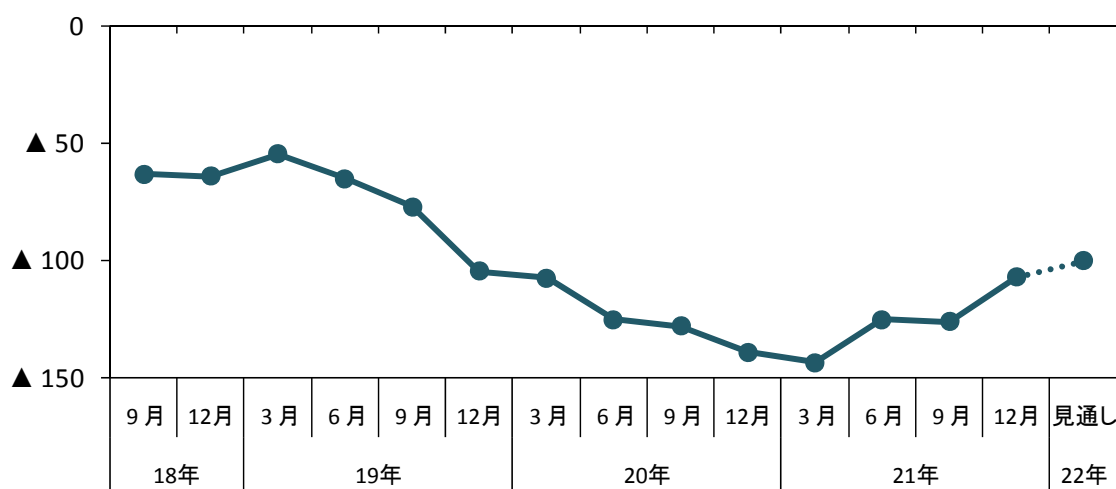
★ 消費指数は▲107.1 ～ 消費マインドは底を脱し徐々に回復～

消費指数は前回調査時点（平成21年9月）よりも18.9ポイント改善して▲107.1となっている。消費マインドは底を脱し、徐々に回復している。

消費指数の内訳は景気判断指数が▲44.8（前期差：17.1）、暮らし向き指数が▲62.3（前期差：1.8）となっている。景気判断指数については政府による11月の「デフレ宣言」を受け物価が下がったと認識されたこともあり、物価DI値が14.1ポイント改善。一方、暮らし向き指数についてはほぼ横ばいであり低調に推移している。

なお、今後の見通しについては、消費指数が6.9ポイント改善して▲100.2となり、引き続き消費マインドは低い水準であるが回復基調である。

図表 1 消費指数の推移



図表 2 消費指数の概要

調査時期	消費指数	景気判断指数				暮らし向き指数					
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり			
21年	6月	▲125.1	▲61.0	▲24.1	▲27.8	▲9.1	▲64.1	▲14.2	▲16.5	▲15.0	▲18.4
	9月	▲126.0	▲61.9	▲23.4	▲26.9	▲11.6	▲64.1	▲14.0	▲15.6	▲15.6	▲18.9
	12月	▲107.1	▲44.8	▲21.7	▲25.6	2.5	▲62.3	▲13.5	▲15.7	▲14.4	▲18.7
前期差 (寄与度)	18.9 15.0%	17.1 13.6%	1.7 1.3%	1.3 1.0%	14.1 11.2%	1.8 1.4%	0.5 0.4%	▲0.1 ▲0.1%	1.2 1.0%	0.2 0.2%	
前年同期差 (寄与度)	32.1 23.1%	32.5 23.3%	4.3 3.1%	1.5 1.1%	26.7 19.2%	▲0.4 ▲0.3%	▲1.6 ▲1.1%	▲0.3 ▲0.2%	1.5 1.1%	0.0 0.0%	
22年 見通し	▲100.2	▲38.0	▲16.3	▲20.2	▲1.5	▲62.2	▲15.3	▲16.2	▲15.2	▲15.5	

(注) 四捨五入により、各項目の寄与度を足し合わせても消費指数（伸び率）とは必ずしも一致しません。

【指数の見方】

消費指数は①景気判断指数と②暮らし向き指数の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとりまします。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します（詳しくはV. 調査の概要6. 指数の作成方法をご覧ください）。

図表3 消費指数（内訳）の推移

消費指数										
調査時期	消費指数	景気判断指数			暮らし向き指数					
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
18年 12月	▲64.0	▲23.0	▲7.6	▲5.0	▲10.5	▲40.8	▲8.0	▲10.1	▲9.4	▲13.4
19年 3月	▲54.5	▲17.3	▲4.7	▲4.0	▲8.6	▲37.2	▲6.8	▲9.0	▲8.5	▲12.9
6月	▲65.0	▲26.0	▲5.6	▲3.9	▲16.4	▲39.2	▲6.8	▲9.9	▲9.6	▲12.8
9月	▲77.0	▲34.5	▲8.8	▲9.1	▲16.6	▲42.5	▲8.7	▲9.3	▲10.6	▲13.9
12月	▲104.7	▲55.5	▲15.2	▲12.1	▲28.2	▲49.2	▲10.3	▲11.4	▲11.7	▲15.8
20年 3月	▲107.3	▲57.9	▲16.2	▲13.3	▲28.4	▲49.4	▲9.9	▲11.3	▲12.3	▲15.9
6月	▲125.3	▲69.5	▲20.8	▲16.7	▲32.0	▲55.8	▲10.6	▲13.3	▲13.7	▲18.2
9月	▲128.0	▲73.1	▲22.1	▲19.4	▲31.6	▲54.9	▲10.1	▲13.2	▲14.1	▲17.5
12月	▲139.2	▲77.3	▲26.0	▲27.1	▲24.2	▲61.9	▲11.9	▲15.4	▲15.9	▲18.7
21年 3月	▲143.6	▲77.7	▲28.4	▲30.9	▲18.4	▲65.9	▲14.4	▲16.3	▲16.1	▲19.1
6月	▲125.1	▲61.0	▲24.1	▲27.8	▲9.1	▲64.1	▲14.2	▲16.5	▲15.0	▲18.4
9月	▲126.0	▲61.9	▲23.4	▲26.9	▲11.6	▲64.1	▲14.0	▲15.6	▲15.6	▲18.9
12月	▲107.1	▲44.8	▲21.7	▲25.6	2.5	▲62.3	▲13.5	▲15.7	▲14.4	▲18.7
22年 見通し	▲100.2	▲38.0	▲16.3	▲20.2	▲1.5	▲62.2	▲15.3	▲16.2	▲15.2	▲15.5

(前期差)										
調査時期	消費指数	景気判断指数			暮らし向き指数					
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
19年 3月	9.5	5.7	2.9	1.0	1.9	3.6	1.2	1.1	0.9	0.5
6月	▲10.5	▲8.7	▲0.9	0.1	▲7.8	▲2.0	0.0	▲0.9	▲1.1	0.1
9月	▲12.0	▲8.5	▲3.2	▲5.2	▲0.2	▲3.3	▲1.9	0.6	▲1.0	▲1.1
12月	▲27.7	▲21.0	▲6.4	▲3.0	▲11.6	▲6.7	▲1.6	▲2.1	▲1.1	▲1.9
20年 3月	▲2.6	▲2.4	▲1.0	▲1.2	▲0.2	▲0.2	0.4	0.1	▲0.6	▲0.1
6月	▲18.0	▲11.6	▲4.6	▲3.4	▲3.6	▲6.4	▲0.7	▲2.0	▲1.4	▲2.3
9月	▲2.7	▲3.6	▲1.3	▲2.7	0.4	0.9	0.5	0.1	▲0.4	0.7
12月	▲11.2	▲4.2	▲3.9	▲7.7	7.4	▲7.0	▲1.8	▲2.2	▲1.8	▲1.2
21年 3月	▲4.4	▲0.4	▲2.4	▲3.8	5.8	▲4.0	▲2.5	▲0.9	▲0.2	▲0.4
6月	18.5	16.7	4.3	3.1	9.3	1.8	0.2	▲0.2	1.1	0.7
9月	▲0.9	▲0.9	0.7	0.9	▲2.5	0.0	0.2	0.9	▲0.6	▲0.5
12月	18.9	17.1	1.7	1.3	14.1	1.8	0.5	▲0.1	1.2	0.2
22年 見通し	25.8	23.9	7.1	6.7	10.1	1.9	▲1.3	▲0.6	0.4	3.4

(前年同期差)										
調査時期	消費指数	景気判断指数			暮らし向き指数					
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
19年 12月	▲40.7	▲32.5	▲7.6	▲7.1	▲17.7	▲8.4	▲2.3	▲1.3	▲2.3	▲2.4
20年 3月	▲52.8	▲40.6	▲11.5	▲9.3	▲19.8	▲12.2	▲3.1	▲2.3	▲3.8	▲3.0
6月	▲60.3	▲43.5	▲15.2	▲12.8	▲15.6	▲16.6	▲3.8	▲3.4	▲4.1	▲5.4
9月	▲51.0	▲38.6	▲13.3	▲10.3	▲15.0	▲12.4	▲1.4	▲3.9	▲3.5	▲3.6
12月	▲34.5	▲21.8	▲10.8	▲15.0	4.0	▲12.7	▲1.6	▲4.0	▲4.2	▲2.9
21年 3月	▲36.3	▲19.8	▲12.2	▲17.6	10.0	▲16.5	▲4.5	▲5.0	▲3.8	▲3.2
6月	0.2	8.5	▲3.3	▲11.1	22.9	▲8.3	▲3.6	▲3.2	▲1.3	▲0.2
9月	2.0	11.2	▲1.3	▲7.5	20.0	▲9.2	▲3.9	▲2.4	▲1.5	▲1.4
12月	32.1	32.5	4.3	1.5	26.7	▲0.4	▲1.6	▲0.3	1.5	0.0
22年 見通し	39.0	39.3	9.7	6.9	22.7	▲0.3	▲3.4	▲0.8	0.7	3.2

(寄与度、前期差)										
調査時期	消費指数(伸び率%)	景気判断指数			暮らし向き指数					
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
19年 3月	14.8%	8.9%	4.5%	1.6%	3.0%	5.6%	1.9%	1.7%	1.4%	0.8%
6月	▲19.3%	▲16.0%	▲1.7%	0.2%	▲14.3%	▲3.7%	0.0%	▲1.7%	▲2.0%	0.2%
9月	▲18.5%	▲13.1%	▲4.9%	▲8.0%	▲0.3%	▲5.1%	▲2.9%	0.9%	▲1.5%	▲1.8%
12月	▲36.0%	▲27.3%	▲8.3%	▲3.9%	▲15.1%	▲8.7%	▲2.1%	▲2.7%	▲1.5%	▲2.4%
20年 3月	▲2.5%	▲2.3%	▲1.0%	▲1.1%	▲0.2%	▲0.2%	0.4%	0.1%	▲0.6%	▲0.1%
6月	▲16.8%	▲10.8%	▲4.3%	▲3.2%	▲3.4%	▲6.0%	▲0.7%	▲1.9%	▲1.3%	▲2.1%
9月	▲2.2%	▲2.9%	▲1.0%	▲2.2%	0.3%	0.7%	0.4%	0.1%	▲0.3%	0.6%
12月	▲8.8%	▲3.3%	▲3.0%	▲6.0%	5.8%	▲5.5%	▲1.4%	▲1.7%	▲1.4%	▲0.9%
21年 3月	▲3.2%	▲0.3%	▲1.7%	▲2.7%	4.2%	▲2.9%	▲1.8%	▲0.6%	▲0.1%	▲0.3%
6月	12.9%	11.6%	3.0%	2.2%	6.5%	1.3%	0.1%	▲0.1%	0.8%	0.5%
9月	▲0.7%	▲0.7%	0.6%	0.7%	▲2.0%	0.0%	0.2%	0.7%	▲0.5%	▲0.4%
12月	15.0%	13.6%	1.3%	1.0%	11.2%	1.4%	0.4%	▲0.1%	1.0%	0.2%
22年 見通し	20.5%	19.0%	5.6%	5.3%	8.0%	1.5%	▲1.0%	▲0.5%	0.3%	2.7%

(寄与度、前年同期差)										
調査時期	消費指数(伸び率%)	景気判断指数			暮らし向き指数					
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
19年 12月	▲63.6%	▲50.8%	▲11.9%	▲11.1%	▲27.7%	▲13.1%	▲3.6%	▲2.0%	▲3.6%	▲3.8%
20年 3月	▲96.9%	▲74.5%	▲21.1%	▲17.1%	▲36.3%	▲22.4%	▲5.7%	▲4.2%	▲7.0%	▲5.5%
6月	▲92.8%	▲66.9%	▲23.4%	▲19.7%	▲24.0%	▲25.5%	▲5.8%	▲5.2%	▲6.3%	▲8.3%
9月	▲66.2%	▲50.1%	▲17.3%	▲13.4%	▲19.5%	▲16.1%	▲1.9%	▲5.0%	▲4.6%	▲4.6%
12月	▲33.0%	▲20.8%	▲10.3%	▲14.3%	3.8%	▲12.1%	▲1.5%	▲3.8%	▲4.0%	▲2.8%
21年 3月	▲33.8%	▲18.5%	▲11.4%	▲16.4%	9.3%	▲15.4%	▲4.2%	▲4.7%	▲3.5%	▲3.0%
6月	0.2%	6.8%	▲2.6%	▲8.9%	18.3%	▲6.6%	▲2.9%	▲2.6%	▲1.0%	▲0.2%
9月	1.6%	8.8%	▲1.0%	▲5.9%	15.6%	▲7.2%	▲3.0%	▲1.9%	▲1.2%	▲1.1%
12月	23.1%	23.3%	3.1%	1.1%	19.2%	▲0.3%	▲1.1%	▲0.2%	1.1%	0.0%
22年 見通し	28.0%	28.2%	7.0%	5.0%	16.3%	▲0.2%	▲2.4%	▲0.6%	0.5%	2.3%

(注) 四捨五入により、各項目の寄与度を足し合わせても消費指数(伸び率)とは必ずしも一致しません。

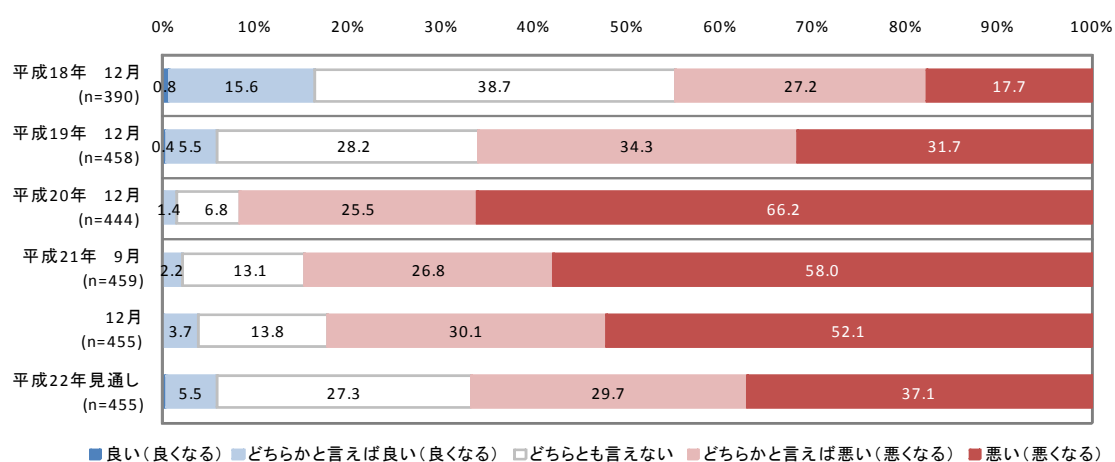
Ⅱ. 調査結果

1. 景気判断と見通し

① 県内景気

現状認識は「悪い」(52.1%)と「どちらかと言えば悪い」(30.1%)を合わせると82.2%の世帯が悪いと判断しているが、景気悪化に対する認識は徐々に和らいでいる。今後の見通しについては「悪くなる」(37.2%)および「どちらかと言えば悪くなる」(29.7%)と考えている世帯の割合は66.9%となっており、先行き不安感も改善されてきた。

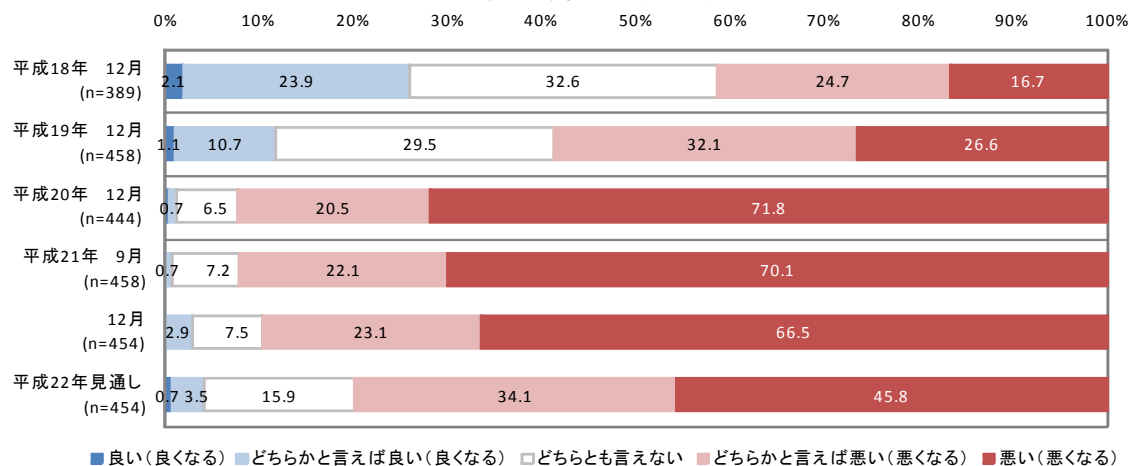
図表 4 県内景気に対する認識



② 雇用環境

現状認識は「悪い」(66.5%)と「どちらかと言えば悪い」(23.1%)を合わせると89.6%の世帯が悪いと判断しているなど、依然として雇用環境の悪さは変わらない。ただ、今後の見通しについては「悪くなる」(45.8%)および「どちらかと言えば悪くなる」(34.1%)と考えている世帯の割合は79.9%にまで低下しており、先行き不安感は多少なりとも緩和されてきた。

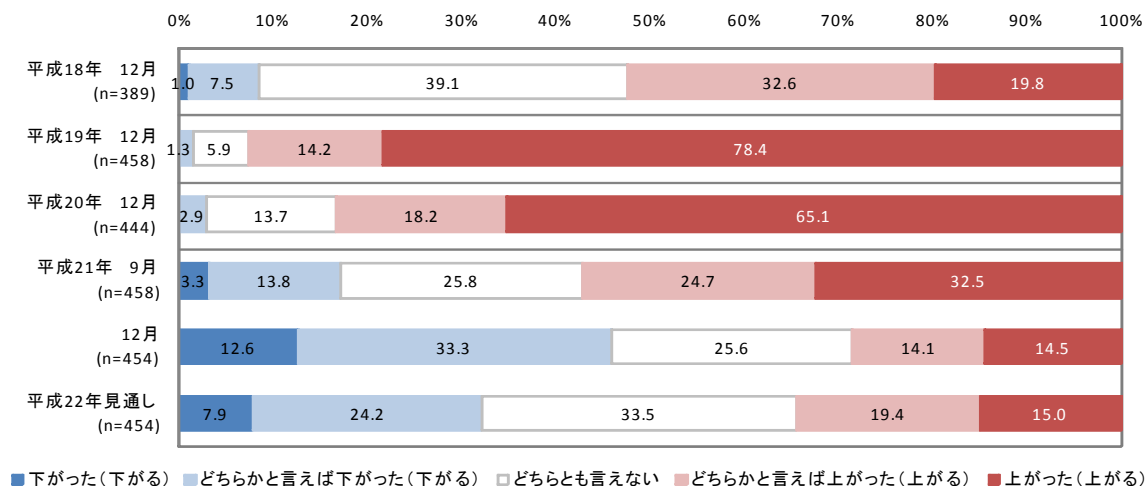
図表 5 雇用環境に対する認識



③ 日用品価格（物価）

現状認識は「下がった」(12.6%)と「どちらかと言えば下がった」(33.3%)を合わせると 45.9%の世帯が下がったと感じており、消費者にとってデフレに対する認識が高まりつつある。今後の見通しについては、「下がる」(7.9%)および「どちらかと言えば下がる」(24.2%)と考えている世帯は 32.1%となっており、引き続き物価の下落傾向は続くと考えられる見方が強いものの、物価上昇への警戒心も根強く残っており、ばらつきが見られる。

図表 6 日用品価格（物価）に対する認識



図表 7 景気・雇用・物価などに関する主な自由回答

(世帯主年齢、住まい)

<景気全般>

- ・ 政権が変わって、良い方向へ変わるのを期待していたが、どうなのだろう。バブルの頃が懐かしい。我が家には小さい子供がいるが、この子供が大きくなったら安心して暮らせる日本であるのか不安に思う。(30歳 庄内地区)
- ・ せっかく景気が良くなってきたと思っていた矢先、円高になり不安になってきた。安い商品が沢山でるのは良いことだが、デフレスパイラルが加速しそうで心配だ。(31歳 置賜地区)
- ・ 給料が下がる、残業が増える。学校が休校になれば仕事を休まなければならない。9月あたりから日常生活がばたばたしている。円高によるデフレ等も懸念される中、早急な対策と目に見える効果を期待したい。(29歳 村山地区)
- ・ 世の中不景気だが、皆テレビなどの情報に左右されすぎていると思う。情報は情報として受け止め、自分の目や耳で感じたことを信じ、不景気だからといって暗くなるような世の中にしたくないと思う。(36歳 村山地区)
- ・ 最悪の時に比べれば景気は良くなってきていると耳にするが、このまま良くなってくれることを願うばかり。ただ、デフレに入ったとのことで、まだまだ油断はできず苦しい状況が続くと思う。(57歳 置賜地区)
- ・ 政権が変わり、当初は苦しみをかち合っていかなければならないと思うが、いずれ良くなると思う。これからは貧しく、清く、美しく実践したい。(62歳 村山地区)
- ・ とにかく家庭も社会も景気が悪くて困っている。政権交代してもまだ、何も変わらない。少しは期待しているが時間がかかりそうだ。子供手当と言われているが、大人手当も作ってほしいくらいだ。山形県ももっと対策を考えてほしい。(87歳 村山地区)

<雇用>

- ・ 子供を産みリストラにあって1年。ここまで雇用が悪くなるとは思わなかった。1年前は求人があったはずなのに。子供を保育園に行けるまでに育てた後、頑張ったママに対してこんな世の中なんて切ない。これからお金がかかっていくのに。子供手当ももちろんだが、子を育てる両親の雇用の安定が何より大事だと思う。(25歳 村山地区)
- ・ 1年前に比べると、少しずつ収入が戻りつつある。が、ハローワークでは求人が少なく、混み合っている。毎年行っていた旅行も行かなくなり、外食も安い店ばかりに行く生活だ。不景気に慣れてきているような気がする。(30歳 置賜地区)
- ・ 昨年末からの派遣切りから1年経った今も、不景気が続いている。こんな世の中から抜け出したい。もっとゆとりのある生活ができる世の中になってほしい。(44歳 庄内地区)
- ・ 高速道路は無料化にしないでよい。公共交通機関や輸送トラックが大変になるし、大渋滞する。扶養控除は、働きたくても仕事がない人や介護などでできない人のことも考えてほしい。子供手当費については、小さい時より、高校からお金がかかることも考えてもらいたい。(46歳 村山地区)
- ・ 最低賃金で雇われている人はたくさんいる。いくら懸命に働いてもたかが知れている。社会はデフレ・円高・貸し渋りで何一つ良い方向に向かっていない。(63歳 最上地区)

<物価>

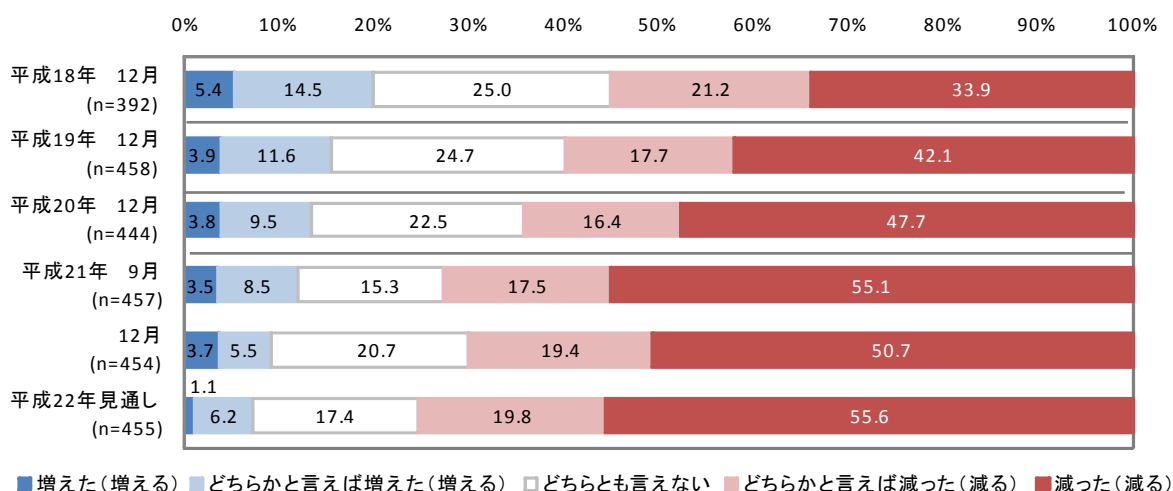
- ・ デフレといわれても、本当に必要なものや、良い物は安くなっていない。あまりにも安い衣料品を見ると、これを作っている人は生活できるのかと心配になる。(32歳 村山地区)
- ・ 最近は安い商品が出ていて、味もさほど気にならないぐらい、とても美味しくいただいている。衣類も安いものが多く出回っている。将来、どのような変化が見られるか分からないが、私は、今はとても賛成である。(29歳 村山地区)
- ・ 百貨店の衣料品の価格も下がっていると思うが品質も下がっている。価格競争にばかりとられず、ブランド意識を忘れず、良いものを売ってほしい。全ての国民がファストファッションを望んでいるわけではない。(38歳 村山地区)
- ・ 物価は下がっているが、灯油は安いときの倍になっているので出費は避けられない。もう40歳なので、正社員で就業したいが、不可能に近い。山形にいても自分の培ってきたスキル・経験が活かせない。(42歳 庄内地区)
- ・ 物価が安くなっても財布の紐が緩むことはない。物を大切に使おうと思ったり、リサイクルショップを利用したりということも増えてきている。(64歳 置賜地区)

2. 暮らし向き判断と見通し

① 世帯（勤労）収入

現状認識は「減った」(50.7%)と「どちらかと言えば減った」(19.4%)を合わせると 70.1%の世帯で収入が減ったと感じている。また、今後の見通しについても、収入が「減る」(55.6%)および「どちらかと言えば減る」(19.8%)と考えている世帯が 75.4%となるなど、今後さらなる世帯収入の減少を見込んでいる世帯が多い。

図表 8 世帯（勤労）収入に対する認識

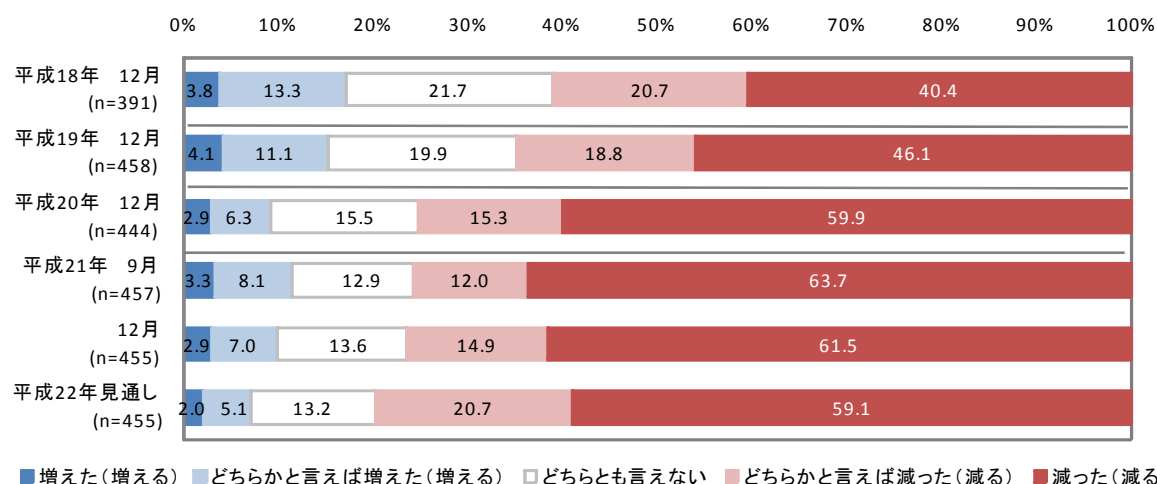


■ 増えた(増える) ■ どちらかと言えば増えた(増える) □ どちらとも言えない ■ どちらかと言えば減った(減る) ■ 減った(減る)

② 資産価値

現状認識は「減った」(61.5%)と「どちらかと言えば減った」(14.9%)を合わせると 76.4%の世帯が資産価値は減ったと感じているが、資産価値の下落を気にする世帯は下げ止まっている。ただ、今後の見通しについては資産価値が「減る」(59.1%)および「どちらかと言えば減る」(20.7%)と考えている世帯の割合が 79.8%あり、所有資産の目減りは継続していくと見込む世帯が多い。

図表 9 資産価値に対する認識

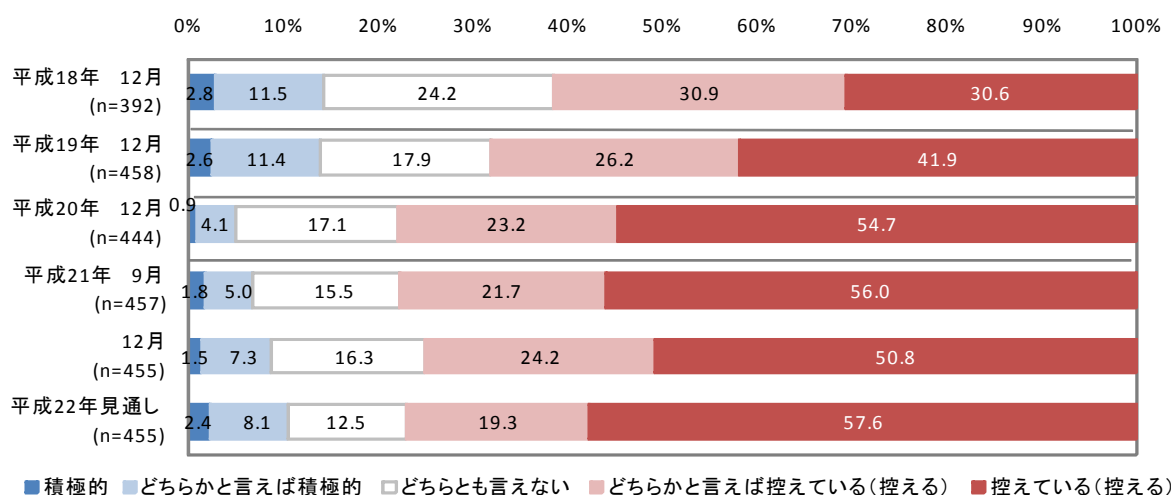


■ 増えた(増える) ■ どちらかと言えば増えた(増える) □ どちらとも言えない ■ どちらかと言えば減った(減る) ■ 減った(減る)

③ お金の使い方（支出状況）

現状認識は「控えている」(50.8%)と「どちらかと言えば控えている」(24.2%)を合わせると75.0%の世帯がお金を使うことを控えており、消費意欲は低い水準にある。今後の見通しについては「控える」(57.6%)および「どちらかと言えば控える」(19.3%)という世帯が76.9%となっており、収入が上がらない以上、消費マインドも同様に上がらない状態にある。

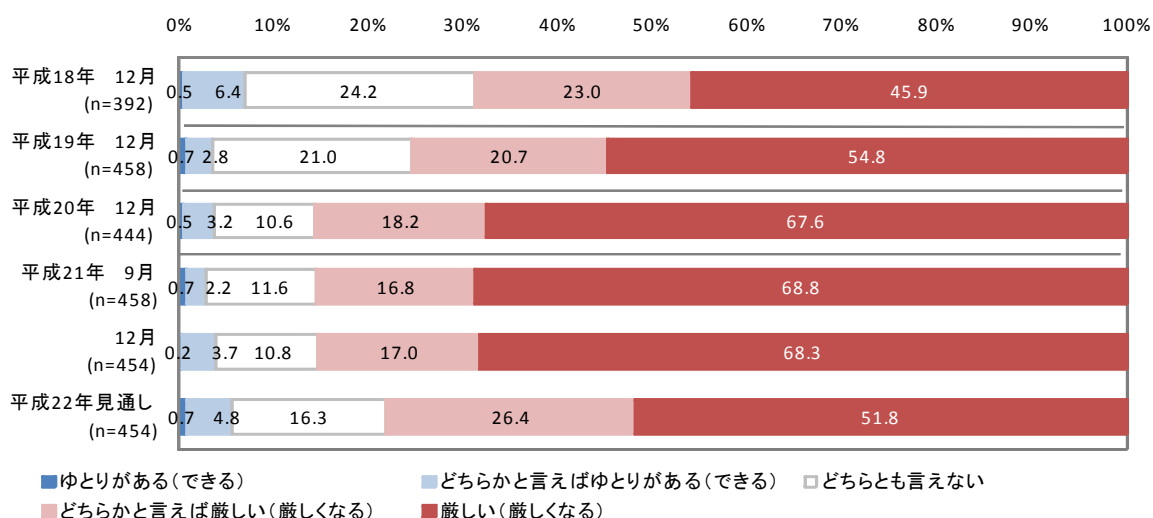
図表 10 お金の使い方（支出状況）に対する認識



④ 生活のゆとり

現状認識は「厳しい」(68.3%)と「どちらかと言えば厳しい」(17.0%)を合わせると85.3%の世帯が厳しいと感じているなど、家計が逼迫している世帯は多い。今後の見通しについては、「厳しくなる」(51.8%)および「どちらかと言えば厳しくなる」(26.4%)と見込む世帯が78.2%と最悪期と比較してやや改善される見込み。

図表 11 生活のゆとりに対する認識



図表 12 収入・資産・お金の使い方・生活のゆとりに関する主な自由回答

(世帯主年齢、住まい)

<収入>

- ・ 昨年よりも夫の収入が減り、しかも子供が生まれて支出が増えているので貯金を崩して生活していた。節約を心がけているが教育費や慶弔費は削ることができない。私も仕事に出て少しでも収入を増やすことにした。もう1人子供がほしいが、この景気では前向きに考えられない。(33歳 村山地区)
- ・ 子供の進学で教育費が増え続けているにもかかわらず、収入は減少傾向である。子供が就職するまでの間、家計を維持できるか不安である。(42歳 村山地区)
- ・ 給与・ボーナスが減り、物価が下がりがつつあって本当にデフレスパイラルになるのではと思う。学生の就職内定率の低さを聞かされた時に、学校を卒業しても仕事のない世の中なんて、あまりにもひどいと思う。自分たちの頃はそんな時代ではなかった。(49歳 村山地区)
- ・ 夏に続いて、夫の冬のボーナスも出ないことになった。給料はこの2ヶ月で5万円のダウン。年末年始はどこへも出かけず過ごす。(51歳 庄内地区)

<お金の使い方>

- ・ 家族で一緒に風呂に入って光熱費節約。早寝をする。規則正しい生活はエコだし身体にもいい。夫の肝機能データも正常値に戻り献血もできるようになった。結果が眼に見えるから続けられる節約を頑張りたい。(庄内地区)
- ・ 先月は臨時収入があり、年末年始に向けていくらか安心していただけなのに、入園費用や予防接種等にお金がかかってしまい、貯金できなかった。今月も予防接種、入園準備、年末年始準備と余裕はできない。(26歳 庄内地区)
- ・ 政権交代をしても何も変わらないと思うし、家計はいまだに大変である。今月結婚式を行なったので、節約生活は今後も続く。先行き不透明なので不安で一杯。(27歳 庄内地区)
- ・ 給与や賞与の減少で、買い物などひかえている。節約しながら、たまに日帰り旅行に出かけている。政権交代で今後どうなっていくのか、期待よりも不安を感じている。(34歳 村山地区)
- ・ 今年は目標を立て、家族みんなで節約を心がけた。紙に決意表明を書き、できることから行動し協力し合った。(50歳 庄内地区)

<生活のゆとり>

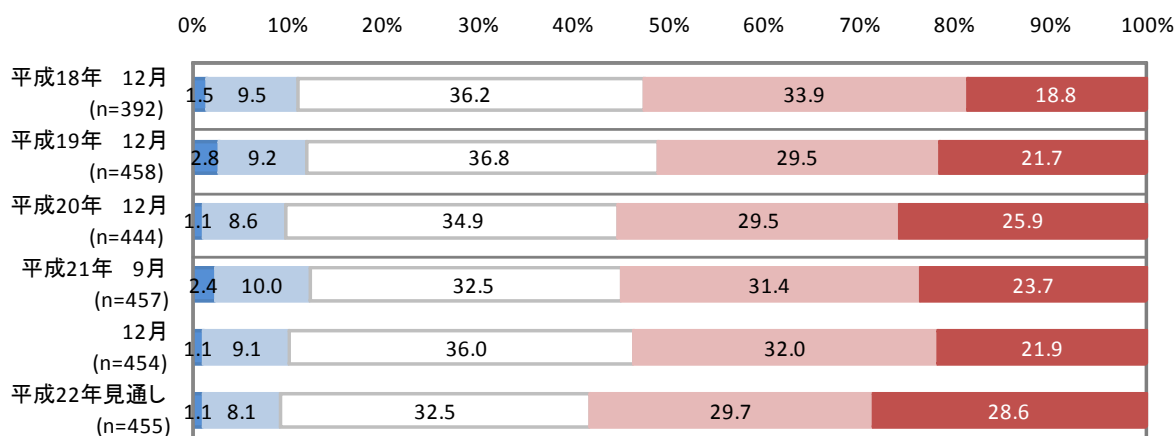
- ・ 夫の会社は休みが多く、残業が全くない。今までにない事態が長く、生活も苦しい。早く景気が上向きになり活気が出てくることを強く望んでいる。(32歳 庄内地区)
- ・ 旅行や外食を控え、ファッションも安い条件で、節約するのも気力が必要で、息苦しさを感じることもある。年末年始は少し財布の紐を緩めたいと、安くて楽しい温泉旅行くらい計画しようと考えている。(32歳 村山地区)
- ・ これ以上収入が減ると、どこを切り詰めればいいのか不安である。飲食店勤務しているが、出前数激減で売上が心配である。来年からの子供手当でゆとりが出ればと期待している。中学入学で児童手当がなくなったこと、保育料の支払、ボーナスカットで大変な一年だった。それでも住宅ローン借換え、車の買換えもできたので幸せに思う。(35歳 置賜地区)
- ・ いざという時のための貯金がまったく無く、食料品も値下げ品しか買わなくなったほどに、生活水準が落ちていると思う。どうにか景気がよくなることを祈るばかりである。(36歳 置賜地区)
- ・ 外食が減っているし、娯楽施設にも行く事ができない。教育費は削りたくないのに、食費を安く抑えて頑張っている。冬は灯油代も高くて厳しくなる。子供手当が出ても、生活費になってしまうと思う。(37歳 村山地区)
- ・ 保険の見直しを考えている。将来のことより今の暮らしをどうにかしないとならないのは悲しいかな現実である。将来は暗闇である。(45歳 村山地区)
- ・ 子供手当が事業仕分けだと騒がしくなっているが、我が家のように子供が大きくなって、専業主婦の家庭の場合は複雑である。扶養控除廃止はなくなったようで少し安心しているが、小さい子供にばかりお金がかかるものでもなく、逆に大きくなればなるほどかかると思う。(47歳 最上地区)
- ・ 冬のボーナスはあてにできない状況なので、年末年始の経費はなるべくかからないように、早めに安値で購入し冷凍保存を考えて実行。節約は楽しんでやる。(52歳 最上地区)
- ・ 夫婦とも60歳になり、夫の母の介護もしなければならぬので、年々不安になる。今年はインフレで物価が上がり、年金生活の私たちは大変な年だった。旅行に行きたくて気晴らしがしたい。(62歳 置賜地区)

3. 日常の買い物に関する判断と見通し

① 嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）

現状認識は「控えている」（21.9%）と「どちらかと言えば控えている」（32.0%）を合わせると 53.9%の世帯が嗜好品の購入を控えている。また、今後の見通しについても購入を控えると考えている世帯が多く、嗜好品の節約志向は高い。

図表 13 嗜好品の購入意向

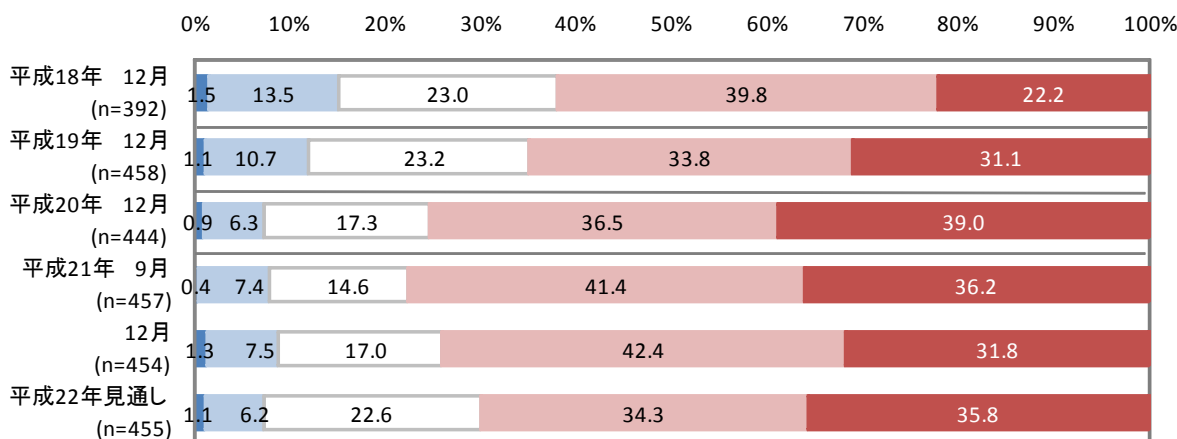


■意欲的 ■どちらかと言えば意欲的 □どちらとも言えない ■どちらかと言えば控えている(控える) ■控えている(控える)

② ファッション衣料・靴など

現状認識は「控えている」（31.8%）と「どちらかと言えば控えている」（42.4%）を合わせると 74.2%の世帯が購入を控えているが、買い控える傾向は若干弱まった。しかし今後の見通しについては依然として購入を控えると考えている世帯が多い。

図表 14 ファッション衣料・靴などの購入意向

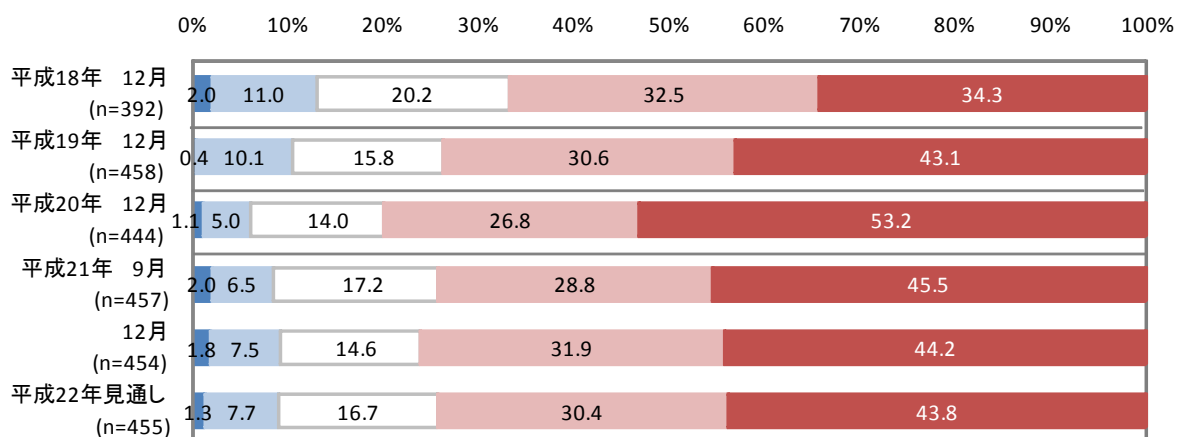


■意欲的 ■どちらかと言えば意欲的 □どちらとも言えない ■どちらかと言えば控えている(控える) ■控えている(控える)

③ 家電・AV製品、家具など

現状認識は「控えている」(44.2%)と「どちらかと言えば控えている」(31.9%)を合わせると76.1%の世帯が購入を控えている。今後の見通しについては、全体的にはほぼ同水準で推移し、「家電エコポイント制度」による消費刺激効果はとくに感じられない。

図表 15 家電・AV製品・家具などの購入意向

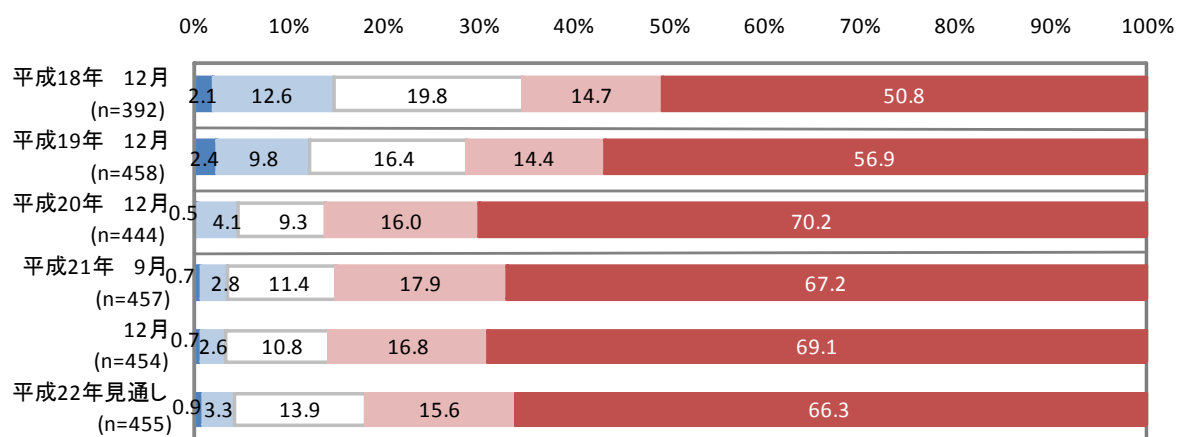


■意欲的 ■どちらかと言えば意欲的 □どちらとも言えない ■どちらかと言えば控えている(控える) ■控えている(控える)

④ 金融商品(株式、債券など)

現状認識は「控えている」(69.1%)と「どちらかと言えば控えている」(16.8%)を合わせると85.9%の世帯が購入を控えており、購入を控えている世帯の数は高止まりしている。今後の見通しについては最悪期は抜け出したものの投資マインドは依然低調である。

図表 16 金融商品の購入意向

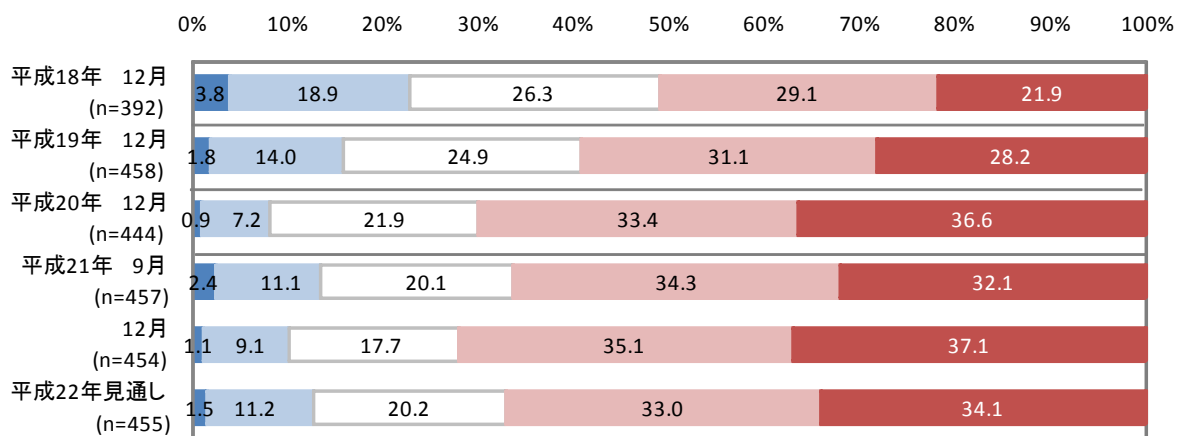


■意欲的 ■どちらかと言えば意欲的 □どちらとも言えない ■どちらかと言えば控えている(控える) ■控えている(控える)

⑤ 娯楽・レジャー（映画、外食、旅行など）

現状認識は「控えている」（37.1%）と「どちらかと言えば控えている」（35.1%）を合わせると 72.2%の世帯が支出を控えている。また、今後の見通しについても、支出意欲はさほど改善がみられない。

図表 17 娯楽・レジャーへの支出意向

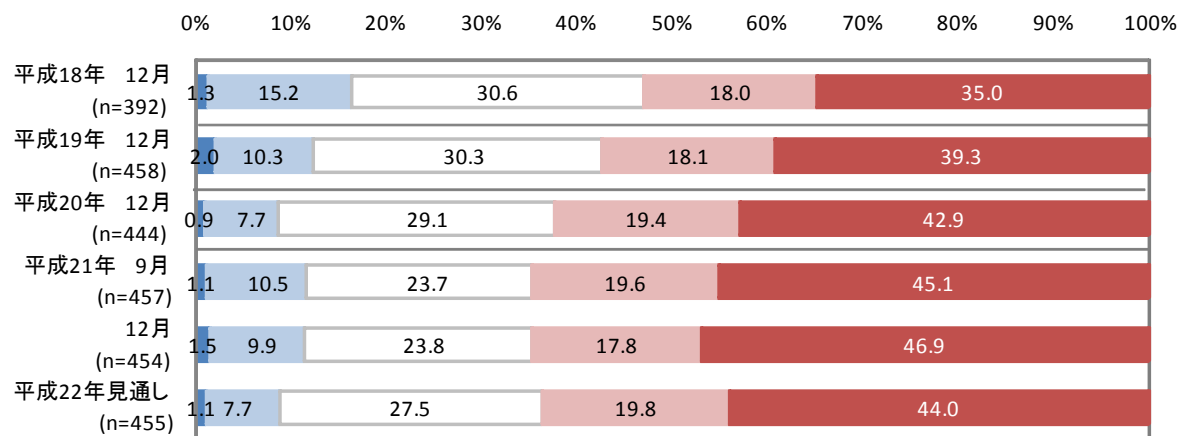


■意欲的 ■どちらかと言えば意欲的 □どちらとも言えない ■どちらかと言えば控えている(控える) ■控えている(控える)

⑥ 習い事（英会話、料理教室など）

現状認識は「控えている」（46.9%）と「どちらかと言えば控えている」（17.8%）を合わせると 64.7%の世帯が支出を控えており底を打った感がある。しかし、今後の見通しについては、支出意欲低調のまま推移する見込み。

図表 18 習い事への支出意向

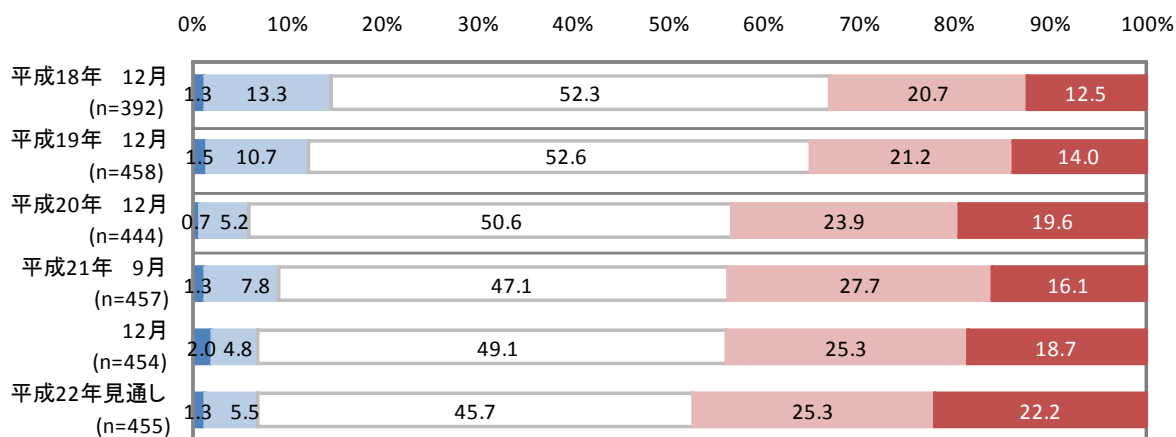


■意欲的 ■どちらかと言えば意欲的 □どちらとも言えない ■どちらかと言えば控えている(控える) ■控えている(控える)

⑦ 交際費（贈答品、慶弔事など）

現状認識は「控えている」（18.7%）と「どちらかと言えば控えている」（25.3%）と答えた世帯が 44.0%となり、調査項目の中でもっとも節約意識が低かった。但し、今後の見通しについては、節約する世帯の割合が微妙に増えている。

図表 19 交際費の支出意向



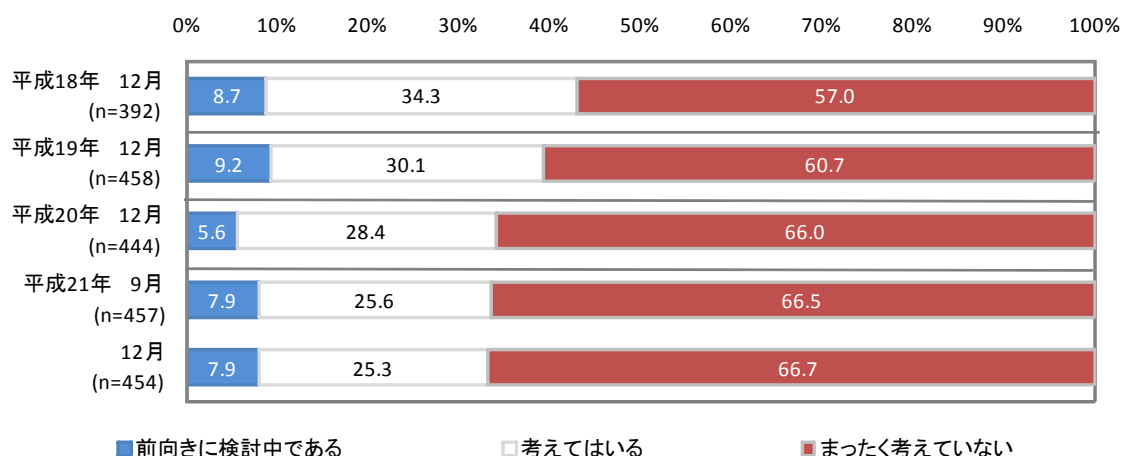
■意欲的 ■どちらかと言えば意欲的 □どちらとも言えない ■どちらかと言えば控えている(控える) ■控えている(控える)

4. 大きな買い物に関する判断と見通し

① 自家用車

自家用車の購入については「まったく考えていない」という世帯が66.7%を占めている。昨年同期と比べて「まったく考えていない」という世帯の割合は0.2%ポイント増で、ほぼ同水準である。エコカー減税や補助金の効果はとくに感じられない。

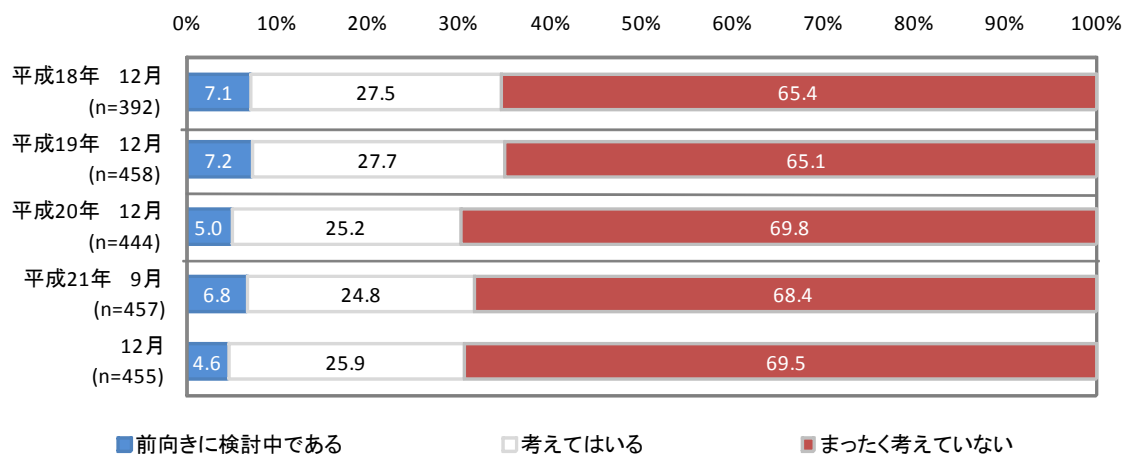
図表 20 自家用車の購入意向



② 住宅の購入・リフォーム

住宅の購入・リフォームについては「まったく考えていない」という世帯が69.5%を占めている。昨年同期と比べて「まったく考えていない」という世帯の割合は1.1%ポイント増加し、「前向きに検討中である」という世帯は2.2ポイント減少した。

図表 21 住宅の購入・リフォームの意向



Ⅲ. 今月の家計簿

今回の家計簿調査によれば、世帯の平均月収は43.5万円となっており、前年同期比でみて4.4万円(▲9.2%)の減収となった。特に、世帯主の収入が2.5万円の減収(寄与度:▲5.3%)と大きかったことが収入減の主な要因。

一方、世帯の平均支出は34.8万円となっており、前年同期比でみて0.8万円の減少(寄与度:2.5%)となった。「食費」、「光熱費」、「小遣い」などの支出が減ったことが支出の削減に寄与している。

なお、平均消費性向は80.1%であり、前年同期比でみて9.2ポイント増加した。

図表 22 収入・支出の動向

(単位:円)

	20年 12月	21年 9月	12月	前期比		前年同期比		
					寄与度		寄与度	
収入	①定期収入	236,915	226,221	227,372	1,151	0.3%	▲9,543	▲2.0%
	②臨時収入	46,133	15,784	30,409	14,625	3.3%	▲15,724	▲3.3%
	1. 世帯主の収入	283,048	242,005	257,781	15,776	3.5%	▲25,267	▲5.3%
	①他の人員の定期収入	117,844	113,795	114,493	698	0.2%	▲3,351	▲0.7%
	②他の人員の臨時収入	14,804	8,761	8,903	142	0.0%	▲5,901	▲1.2%
	2. 他の人員の収入	132,648	122,556	123,396	840	0.2%	▲9,252	▲1.9%
	①社会保障給付	26,781	32,893	21,875	▲11,018	▲2.5%	▲4,906	▲1.0%
	②預(貯)金引き出し	17,814	23,856	20,171	▲3,685	▲0.8%	2,357	0.5%
	③借入れ	1,925	20,691	2,527	▲18,164	▲4.1%	602	0.1%
	④財産売却	1,268	67	2,466	2,399	0.5%	1,198	0.3%
	⑤その他	15,432	5,745	6,436	691	0.2%	▲8,996	▲1.9%
	3. その他収入	63,220	83,252	53,363	▲29,889	▲6.7%	▲9,857	▲2.1%
	I. 収入計	478,916	447,813	434,540	▲13,273	▲2.9%	▲44,376	▲9.2%
	支出	1. 食費	58,360	57,368	57,177	▲191	▲0.1%	▲1,183
2. 住居費		44,208	51,851	49,757	▲2,094	▲0.6%	5,549	1.6%
3. 水道・光熱費		27,319	22,643	25,298	2,655	0.7%	▲2,021	▲0.6%
4. 通信・交通費		31,378	31,657	31,010	▲647	▲0.2%	▲368	▲0.1%
5. 被服・装飾費		12,481	10,278	11,672	1,394	0.4%	▲809	▲0.2%
6. 各種保険料の支払い		38,154	38,372	37,878	▲494	▲0.1%	▲276	▲0.1%
7. 医療・介護費		12,423	10,615	12,783	2,168	0.6%	360	0.1%
8. 育児・教育費		26,836	24,791	27,329	2,538	0.7%	493	0.1%
9. 仕送り		8,309	10,885	9,342	▲1,543	▲0.4%	1,033	0.3%
10. 小遣い		38,208	39,510	35,020	▲4,490	▲1.2%	▲3,188	▲0.9%
11. ローン・月賦の支払い		12,567	14,985	16,165	1,180	0.3%	3,598	1.1%
12. その他支出		29,544	51,560	34,791	▲16,769	▲4.6%	5,247	1.5%
II. 支出計	339,787	364,515	348,222	▲16,293	▲4.5%	8,435	2.5%	
平均消費性向(支出計÷収入計×100)	70.9%	81.4%	80.1%	▲1.3%ポイント	—	9.2%ポイント	—	

(注) 四捨五入により、各項目の寄与度を足し合わせても収入計もしくは支出計の寄与度(伸び率)とは必ずしも一致しません。

IV. 特別調査

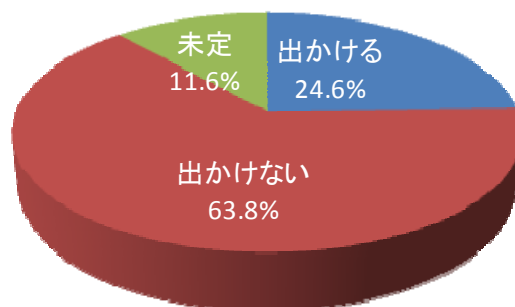
昨年来の景気後退を受け、県内においても引き続き苦しい家計が続いている。今年は一層節約意識の高い年末年始が予想されるが、その中での過ごし方と節約状況についての特別調査を行った。

1. 年末年始の過ごし方について

① 年末年始の外出状況

年末年始に外出（帰省を含む）をするか尋ねたところ「出かける」と答えた世帯の割合は 24.6%であり「出かけない」と答えた世帯の割合が 63.8%と圧倒的に多かった。

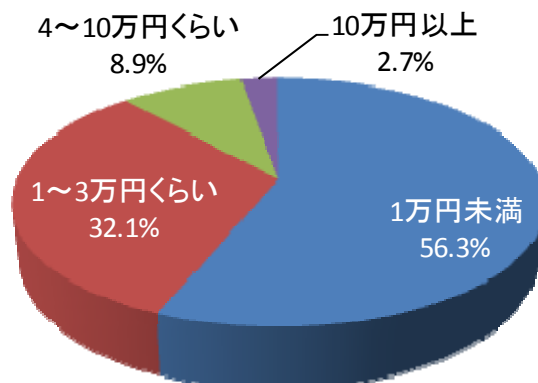
図表 23 年末年始の外出状況 (n=456)



② 旅行にかかる予算

①で「出かける」と答えた世帯に対して一人当たりの予算について尋ねたところ、1万円未満の割合が 56.3%と過半数を占めている。また 88.4%の世帯が一人当たり 3万円くらいの範囲での旅行を予定しており、例年よりも比較的期間が短いためか近場への旅行で済ませる世帯が多いと考えられる。

図表 24 旅行にかかる一人当たりの予算 (n=112)

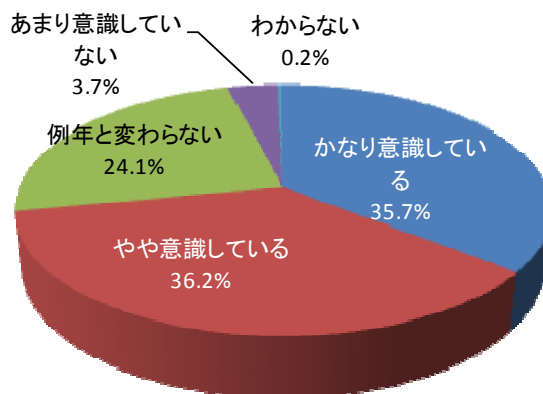


2. 年末年始の節約状況について

① 節約意識の度合い

今年の年末年始は昨年と比べてどのくらい節約を意識しているか尋ねたところ「かなり意識している」35.7%と「やや意識している」36.2%を合わせると 71.9%の世帯で節約を意識していることが分かった。

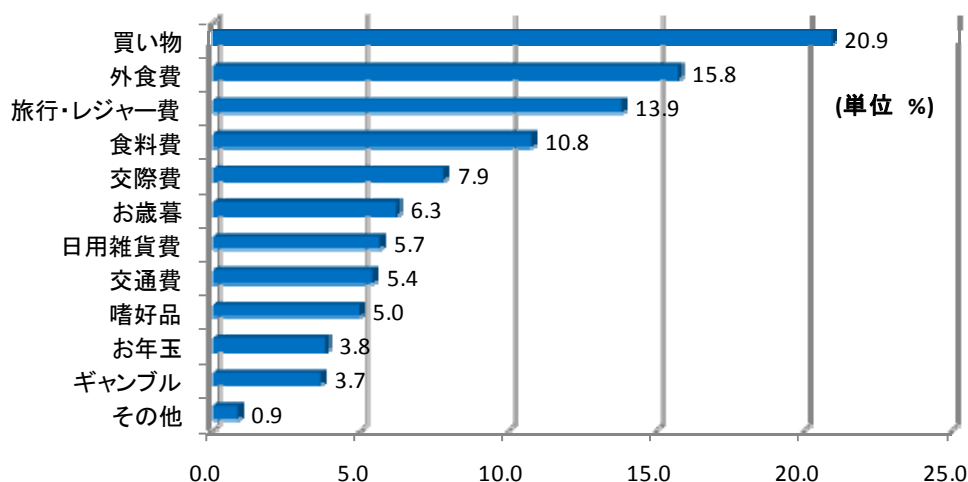
図表 25 節約意識の度合い (n=456)



② 節約する支出項目

①で「意識している」、「やや意識している」と答えた世帯に対して年末年始は何を節約するかを尋ねたところ、「買い物」が 20.9%と最も多く、次いで「外食費」15.8%、「旅行・レジャー費」13.9%が多かった。冬季のボーナス支給率が低下したことを受け、個人消費も低迷しており、年末年始は小売業、サービス業にとって厳しいものとなると予想される。とくに外食産業はデフレによる「値下げ合戦」と「内食」傾向による客離れにより出口が見えない状況である。

図表 26 節約する支出項目 (n=328)



V. 調査の概要

1. 調査の目的

県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の方法

- ・ 郵送調査専属モニターを利用したアンケート調査
- ・ モニター世帯数：467 世帯 ※今回の有効回答世帯数（回答率）：456 世帯（97.6%）

3. 調査の対象者

- ・ 県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数 2 人以上の世帯）

4. 調査期間

- ・ 平成 21 年 12 月 1 日～14 日

5. 調査項目

（1）判断項目

① 景気判断（五肢択一）：

「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」に関する現状認識と見通し。

② 暮らし向き（五肢択一）：

「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する現状認識と見通し。

③ 日常の買い物や支出動向（五肢択一）：

「嗜好品（お酒、たばこなど）」、「ファッション衣料・靴など」、「家電・AV製品、家具など」、「金融商品（株式、債券など）」、「娯楽・レジャー」、「習い事」、「交際費」の支出に関する現状認識と見通し。

④ 大きな買い物や支出動向（三肢択一）：

「自家用車」、「住宅（リフォーム含む）」の支出に関する現状認識と見通し。

（2）計数項目

① 最近 1 ヶ月の収支状況

6. 指数の作成方法

- (1) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」、「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」の7項目について、回答者の回答結果にポイントを与える。
- (2) ポイントの与え方は、例えば「県内景気」については、「良い」(1.0)、「どちらかと言えば良い」(0.5)、「どちらとも言えない」(0.0)、「どちらかと言えば悪い」(▲0.5)、「悪い」(▲1.0)とする。
- (3) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」は家計を取り巻くマクロ経済環境に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「景気判断指数」としてまとめる。
- (4) 「世帯収入の増え方」、「資産価値の増え方」、「お金の使い方」、「暮らしのゆとり」は“我が家の暮らし向き”に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「暮らし向き指数」としてまとめる。
- (5) 「景気判断指数」と「暮らし向き指数」に対して質問項目数とサンプル数をウェイトとする係数を乗じ、両指数を標準化した上で足し合わせ、「消費指数」とする。

以上

<お問い合わせ先>

株式会社荘銀総合研究所

研究開発グループ 熊本／梅木

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017

FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@sfsi.co.jp

URL : <http://www.sfsi.co.jp/>